

光蓮寺外観

長野県長野市西尾張部

柳原山光蓮寺の開祖は、源頼信の裔、井上又太郎頼綱の息男、井上頼光也。建久4年(1193年)比叡山延暦寺に於いて、兄頼重と共に得度し、天台の学を修む。後、下総国磯部に於いて初めて、親鸞聖人の法弟となる。而して、兄頼重は信濃国水内郡中俣に一寺を創建して柳嶋山勝善寺と称し、舎弟頼光は同郡西久保に一寺を建て柳原山勝善寺と称す。時に、寛喜3年(1231年)のこと也。共に土地千貫を領す。後、中俣勝善寺は高井郡八町に移り、次で須坂に移る。

久保勝善寺7世了慶、永享11年上洛し、大谷本廟に参拝す。其際、本願寺に於いて蓮如上人より自筆奥書の聖教を拝領し以後永く寺宝として伝う。其後、久保勝善寺は永禄年間の甲越戦争に際して



光蓮寺外観

越軍の陣地となりて伽藍消失し、同郡西尾張部に移る。時に10世了順の世にて、其後了順は中俣勝善寺の教了と共に石山合戦(1570～1580)に参加し、遂に戦死す。為に一時、中俣勝善寺に合併さる。本願寺教如上人、合戦の功を称して更めて光蓮寺の寺号を賜り西尾張部に再興す。寺号の光蓮は久保勝善寺所縁の蓮如上人の一字を拝領せしもの也。時に11世の行心となす。